

# 1 令和8年度当初予算編成

## (1) 予算編成の基本的な考え方

令和8年度の一般会計の当初予算は、大幅な一般財源の不足が見込まれる、大変厳しい予算編成となりました。個人市民税や地方消費税交付金などの収入増加は見込まれるものの、賃金や物価の上昇は、様々な経費を大幅に増加させ、一層の財源不足を生じさせました。

厳しい財政状況の中でも、大きく収入が伸びているふるさと納税を有効に活用し、子ども・子育て支援など未来へ向けた投資を進めるとともに、老朽化した公共施設の再整備などの課題解決に向けた取組を進めます。

## (2) 当初予算の状況

一般会計予算の総額は、380億5,000万円で、71億4,600万円、23.1%増加（令和7年度当初予算との比較。以下、本書において、増減額及び増減率の記載について同じ。）しています。

ふるさと納税による寄附金収入を前年度の30億円から70億円と大幅な増加を見込むことで、歳入はもとより歳出でも基金への積立や業務委託料など関連予算が増加しています。

歳入ではこのほかに市税で約2億円、地方消費税交付金で約1億6,000万円の増加を見込んでいます。

歳出では、野球場の長寿命化整備で約3億円の増加を見込み、令和9年度に開校予定の統合小学校「利根かもめ小学校」の整備経費の約2億円と、(新)銚子中学校の整備に係る変更実施設計業務などの約1億9,000万円を新たに予算計上しています。また、障害者自立支援給付経費や、介護保険事業、後期高齢者医療事業の2つの特別会計への繰出金など、高齢化の進展などに伴い社会保障関係の経費が増加しています。

ふるさと納税の寄附金を積み立てた「子ども未来基金」を活用して、引き続き給食費や保育料を無償化するほか、新たに市内小・中学校の修学旅行費用の一部を助成するなど、子育て世代の経済的負担の軽減を図ります。

また、国の補助金などを活用しながら、市庁舎内へ行政用キオスク端末を設置するほか、Web上で市税などの口座振替登録ができるサービスの導入など、デジタル技術を活用した取組を進め、市民の利便性の向上を図ります。

なお、財政調整基金から約12億円を繰入れることで収支を整えています。